

## 平成29年度

# 府中市地域包括支援センター 業務チェック結果報告

• 地域包括支援センター泉苑	……………P2～3
• 地域包括支援センターよつや苑	……………P4～6
• 地域包括支援センターあさひ苑	……………P7～9
• 地域包括支援センター安立園	……………P10～11
• 地域包括支援センターしみずがおか	……………P12～14
• 地域包括支援センターかたまち	……………P15～17
• 地域包括支援センターしんまち	……………P18～19
• 地域包括支援センター緑苑	……………P20～22
• 地域包括支援センターにしん	……………P23～24
• 地域包括支援センターこれまさ	……………P25～27
• 地域包括支援センターみなみ町	……………P28～29

1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区（町名）	武蔵台・北山町・西原町・日鋼町・東芝町・美好町（1・2丁目）		
人口	24,264人	高齢者人口	5,945人
自治会数	55団体	老人クラブ数	9団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	4	2	1	2	0	9	0	1	0	1	1	0	3	3

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

市の西北部に位置し、国分寺市・国立市と隣接している。古くからの住宅が立ち並び、高齢化率が30%を超える市内1・2位の町や最も高齢化率が低い集合住宅の町を含む地域を担当しているため、町ごとに地域特性が異なり、個別の地域アプローチが必要と考える。

武蔵台： 1丁目と2・3丁目では立地上高低差があり、バスも不便なため、高齢者にとっては行き来が困難。2・3丁目は国分寺市・国立市と隣接し、府中市街地へ出向くことが困難なため、府中市の活動が浸透しにくい。また、大勢が集まれるような場（集会所等）も少ない。都営住宅が多く、特別養護老人ホーム・総合病院もある。

北山町： 都営住宅が多く、高齢化率は市内で2番目に高い。道路拡張工事の影響で人口が減少。古くからの商店は軒並み閉店。町の中心部にあるコンビニエンスストアが足の不自由な高齢者にとって唯一の買物場所となっているが、そこまでも行けない高齢者は宅配やヘルパーに頼らざるを得ない。住民の見守りの意識は高く、有志による見守りあい委員会を発足。サロン活動を展開している。

西原町： 約40年前から移り住まれた戸建住宅が並び、古くからの住民同士の付き合いがあるも北山町と同様に道路拡張工事の影響で人口が減少。住民自治組織として先駆的に見守りネットワーク活動をおこなっており、20年以上の歴史がある。

東芝町： 約15年前に建てられた巨大高層マンション。マンション内の住民間の活動は盛ん。防災センターと自治会・民生委員と連携し、住民の状況を良く把握されている。南側に約100世帯の分譲マンションが立っているが高齢者は少ない。双方のマンションの交流は少ない。僅かな戸建群を併せても市内で高齢化率が最も低い町。

日鋼町： 全32棟の築50年以上になる団地。4～5階建てだがエレベーターがないため足が不自由な高齢者は階段昇降が困難。市内で最も高齢化率が高い。建替問題で賛成・反対の意見が交錯しているが、高齢者が多い故に住民間の見守りの意識が高く、独自でサロン活動等イベントを実施している。

美好町1丁目

戸建に住む昔からの地主も多いが、高齢者が多く住む都営住宅もある。2丁目に立ち並んだ新築住宅に移り住んだ若い世代も増えた。泉苑との間に広大な敷地の東芝工場を挟み分断されていることから、地域包括支援センターとしての周知度は担当エリア内で一番低い。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	①	②			
資格								①	②			
	0.	0.						8	7			
社会福祉士	○	◎				◎				○		
保健師・看護師				◎								
主任介護支援専門員	◎											
介護支援専門員	○	○		○	◎	○	◎			◎		
介護福祉士	○	○	◎		○	○	○					
その他												

### 4 ヒアリング結果

#### ◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・虐待の対応について、担当職員が帳票の記録の仕方や市へ通報をあげているか等を確認し、声掛けをすることで、決められた手順に沿って進められるよう意識的に取り組んでいる。
- ・総合事業の内容の理解を深めるために職員間で勉強会を開いており、また、地域住民への説明会も実施している。
- ・ケアマネジャーへのプラン指導を徹底しており、利用者の自立支援につながるプランとなるよう努めている。
- ・予防事業の新規利用者獲得のため、個別で案内を郵送する等の取組を継続し、僅かであるが参加者確保につながっている。
- ・多数の医療・介護関係を訪問し、積極的な関係構築を図っている。
- ・医療との連携事例の選択を全職員で行う、他機関への勉強会等に積極的に参加するなど、センター全体で在宅療養に取り組んでいく姿勢がうかがえる。
- ・毎月ケアマネサロンを実施しており、顔の見える関係が出来ている。そのため、困難ケースの相談もしやすく、細かい情報も共有でき、信頼関係を築けている。
- ・今年度から始まった認知症初期集中支援チームとの取組では、積極的に困難事例をすくいあげ、医療へつなぐことができた。
- ・地域課題について、町ごとに分析している点が高く評価できる。

#### ◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・職員同士の情報共有について、不足なく行えるようシステムを確立させてほしい。
- ・関係機関との連携について、関わりが難しいと感じている機関との連携についても強化できるよう、必要に応じて市と協働しながら取り組んでほしい。
- ・介護予防講座で在宅療養をテーマに取り上げていただいております、住民への普及啓発をしていただいている。高齢者地域支援連絡会で一般住民も含めての開催なども今後期待する。
- ・美好町エリアの認知度が低いという分析結果から、継続的に周知活動に力を入れてほしい。

## 地域包括支援センターよつや苑

### 1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区（町名）	四谷・住吉町・分梅町・美好町3丁目		
人口	35,503人	高齢者人口	7,206人
自治会数	29団体	老人クラブ数	11団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	8	7	0	2	0	6	1	1	1	2	1	1	1	1

### 2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<p>四谷： 1・2丁目は新旧住宅や農家、借家やアパートが混在し、昔ながらの地域関係が残っている。3丁目は40年程前の宅地整備の分譲住宅が多い地区で高齢化率も高く、子ども世代の一人暮らしや空き家が多くなっている。4～6丁目は農家や市営住宅、また新しい高層の分譲マンションが増えている。府中市の外れにあり、サービスの受け皿（特に軽度者）が少ない地域である。高齢化率20.8%。</p> <p>住吉町： 中河原駅を中心にスーパーや銀行など人が集まる場所だが、交通量の多い道路があり、高齢者にとっては利用しにくい場所でもある。平成28年に都営住宅の引っ越しが終了し、現在建替え中。大型マンション群がある。駅を中心に救急受入病院や開業医が多く、医療との連携が取りやすい。高齢化率20.2%。</p> <p>分梅町： 都営住宅、市営住宅には高齢者が多い。1丁目の介護予防推進センターには近隣の高齢者が活用しており、つながりの場となっている。自治会の連合会があり、青年会と連携して神社のお祭り等を開催している。分倍河原駅近隣には商業施設があり、活動的な地域である。高齢化率は21.4%。</p> <p>美好町3丁目 旧甲州街道を挟み農家を中心に発展した北西部と、企業の進出により宅地化が進んだ南西部にそれぞれ自治会があり、それに派生して老人会が作られた経緯がある。アパートやマンション、戸建て住宅が多く、若い世代が多い。老人クラブの高齢化が進んでいる。高齢化率16%。</p>
--

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員						
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦							
資格														
社会福祉士	○		◎											
保健師・看護師				◎										
主任介護支援専門員	◎	◎												
介護支援専門員	○	○	○		◎	◎	◎							
介護福祉士	○	○	○											
精神保健福祉士	○													

### 4 ヒアリング結果

#### ◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・よつや苑単独ではなく、他の地域包括支援センターと協力して、市の関係機関の制度・業務内容の情報交換会を行い、日々の相談業務に活かそうと努力している。限られた人員・時間の中での効率的な良い試みである。

・教室の新規参加者獲得のため、昨年度に引き続き二次予防事業対象者データを活用することができており、今年度は、案内の発送方法を工夫することで返信率・教室参加率ともに向上させている。また、民生委員から得た情報をもとに高齢者宅を戸別訪問し、地域包括支援センターの紹介とともに教室の案内に積極的に取り組んでいる。

・医療・介護関係機関との連携について、困難を感じることなく行えている。また、日頃から様々な場面を活用し、関係機関とのネットワーク構築のため、在宅療養相談窓口の周知等に取り組むことができています。

・ケアマネサロンは、みなみ町とエリア的に重複することもあるので合同で行ったり、関係する機関の職員を呼ぶなど実施の工夫をしている。このことにより、質問も活発に出るなど効果も出ている。主任ケアマネジャーとの関係性も良好で、協力体制も築けている。

・限られた人員と時間の中で、民生委員から得た情報に基づき全戸訪問するなど、支援の必要な方をもれなく把握することができるよう、地域からの情報を有効に活用することができている。地域とのより良い関係性を今後も維持して行って欲しい。

#### ◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・生活困窮者自立支援法が認知されつつあるが、高齢者・障害者・児童など複合的な世帯に対する相談が多くなってきており、今後も増加してくると思う。その為にも、障害者福祉・児童福祉などの関係機関との情報交換会を行って欲しい。

・総合事業に移行すると、ケアマネジメントやサービスの種類が増え、事務手続きを含めて複雑化する部分も多い。地域包括支援センターは、予防給付に続き総合事業でもサービス提供の要としての役割が期待される場所、市とともに制度への理解をより深めていただき、事業所へ助言等の支援にもあたっていただきたい。

・在宅療養相談窓口として、関係機関とのネットワークだけではなく、市民を対象とした在宅療養の普及啓発を、様々な場面（高齢者地域支援連絡会や介護予防講座等）を通して実施

されること期待している。

・認知症サポーターの名簿に関して、案内を出しても効果的でないため、名簿の見直しを進めている。よりよい活用について期待している。

地域包括支援センターあさひ苑

1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区（町名）	朝日町・多磨町・紅葉丘・白糸台（1～3丁目）・若松町1丁目		
人口	32,697人	高齢者人口	6,213人
自治会数	17団体	老人クラブ数	7団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	6	8	0	2	0	6	0	1	0	1	1	0	0	0

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

府中市の東北部に位置し、小金井市・調布市・三鷹市に隣接しており高齢化率は19.0%である。市中心部へは自転車を利用するか、ちゅうバスを利用する方が多い。多磨町・紅葉丘には医療機関が少ない（紅葉丘に1か所）ことと、スーパーから離れていて買い物に不便している地域もある。戸建て住宅が中心で、最近空き地や農地に新築住宅ができてきている。

朝日町： 戸建て住宅が多く長年住んでいる高齢者に関しては、民生委員が大多数を把握している。東京外国語大学があることで、古いアパートは建て替えられ、ワンルーム形式のアパートが増えた。2つある大規模なオートロックのマンションに住む高齢者はあまり把握が進んでいないのが課題。グランド跡地の新興住宅地「ときの杜」は一昨年より特に力を入れ、自治会役員が加入へのアプローチを地道に行い、少しずつ効果が表れている。長年地域の公園で行っている夏祭りは、地域交流の場としての効果が大きく、自治会が結束し、ボランティアの協力を得て、子どもから高齢者まで異世代交流の場となっており、毎年多くの地域住民や学校の教員も集まる。地域包括支援センターの職員も担い手として参加し交流を図っている。老人会は解散したままで、集まる機会がないとの声も出ている。

多磨町： 独自の高齢者見守りネットワークを構築していて、1町会でまとまりがある。町会では毎年敬老会を10月に実施しており、50年以上長く継続されており、75歳以上の方たちのほとんどを把握されている。老人会も様々な活動を行っていて、加入者は活発に活動に取り組んでいる。地域密着の寺を会場とした「多磨町サロン」はすっかり地域包括支援センターの手を離れ後方支援としての役割となり、地域住民主体のサロンと変貌している。  
ただし、町会や老人会に加入しない方が増えてきており課題となっている。買い物については、多磨駅周辺に小さい商店があるが、買い物難民への支援も課題。

紅葉丘： 1～3丁目の自治会、都営住宅の自治会がある。紅葉丘3丁目町会は、民生委員を中心に、自治会で交流サロンを月2回紅葉丘公会堂で行っている。資源回収の取り組みや運動会の開催、町会だよりの発行、敬老の祝いの会開催等、地域に還元できる仕組み作りをしている。昨年からは、地域にある介護保険事業所を利用した子ども食堂が始まり、更なるネットワークの動きが期待できる。2丁目町会、1丁目町会もサロンが定期的に行われている。高齢者地域支援連絡会の際の情報交換等で、住民の方た

ちが問題意識をもち取り組んだ結果であり、今後も社会福祉協議会、地域包括支援センターの後方支援も含めて連携を図っていく。自治会、老人会、民生委員がしっかりと連携した取組が継続されている。今年の文化センター祭りには地域包括支援センターと、わがまち支えあい協議会準備会が隣り合わせて出店した。

#### 白糸台（1～3丁目）

自治会が継続的に活動している。古くからの住民と比較的新しい住民がおり、高齢化率は低い、予防的な活動が特に必要な地域である。白糸台地域は地域包括支援センターしみずがおかと2分している関係上、平成24年度より、高齢者地域支援連絡会を協同開催し、協力して取り組んでいる。地域が広く民生委員の地域住民の把握が他地域と比べ進んでいない現状があるため、重点的に二次予防対象者名簿や災害時要援護者名簿を利用して個別訪問による実態把握やダイレクトメールによる地域包括支援センターの紹介や、予防事業への案内を進めている。白糸台文化センターまつりに地域の要請で初めて地域包括支援センターとして出店した。

#### 若松町1丁目

高齢化率は低い、40歳から74歳までの人口比が多い。マンションが多く、近隣との交流が希薄で、実態把握が難しいと自治会からの声もあるため、今後孤立の問題を抱えた世帯の相談ケースが増えていく可能性がある。特に若い世代に対する介護予防啓発等や多世代に渡る見守りネットワークの周知などを強化していく必要がある。地域包括支援センターあさひ苑エリア全体で府中第四小学校、府中第十小学校、白糸台小学校、府中第二中学校での認知症サポーター養成講座が定着してきており、子ども世代、親世代に対する見守りネットワークの啓発の一助となっている。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員							
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	職員⑧	① 0. 4	② 0. 8	③ 0. 4 5	④ 0. 8	⑤ 0. 4 5	⑥ 0. 3	⑦ 0. 1 5	
資格	社会福祉士	○	○					◎								
	保健師・看護師			◎												
	主任介護支援専門員	◎	◎													
	介護支援専門員	○	○		◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎				
	介護福祉士	○	○		○	◎	○	○	○		○	○	◎			
	その他	精	精					精	柔・ 鍼	准 看				栄		

※ 精：精神保健福祉士、柔・鍼：柔道整復師・鍼灸師、准看：准看護師、栄：管理栄養士

### 4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など



- ・高齢者虐待対応の必要性を三職種で判断し、早期の段階で市に報告している。また、センター長を中心に関係機関との情報交換や顔の見える関係作りを積極的に行っており、実際の対応において、関係機関とのスムーズな連携を図るうえでの一助となっている。
- ・居宅サービス提供事業所を地域支援連絡会へ取り込めたこと、書き写しの自主グループの育成支援。総合事業・介護予防ケアマネジメントに関する各種問題点を感じながらも、現状出来る介護予防ケアマネジメントに取り組んでいる。
- ・多職種研修会の準備・開催を通じて、様々な医療・介護関係機関との顔の見える関係性を築くことができた。また、そこで途切れることなく医師等と更に進んだ話をする事ができる関係性になっている。
- ・ケアマネサロンでは、参加したケアマネジャーに違う視点を持てるよう工夫し、また、より各ケアマネジャーが持っている疑問や悩みがよく出るようになり、よい情報交換の場となっている。そこで顔の見える関係になり、協力連携がしやすい関係性になっている。
- ・地域包括支援センター独自で圏域マップを作成し、介護事業所や医療機関等の情報の見える化することに加え、様々な場面でマップを活用し、地域課題の解決に向かっていける取組について期待している。
- ・地域特性や課題の抽出等地域包括支援センター全体の業務に対して、問題意識を持って積極的に取り組まれている。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・集合住宅の管理組合等、地域内の一部の自治会については連携に苦慮されている部分があった。今後、自治会定例会等へ出席する中で自治会同士の横のつながり等を活用し、連携の機会を増やしてもらいたい。
- ・介護予防事業の変遷に関しての「課題意識」、担当エリアの「地域特性の把握」をされているので、それらを踏まえた今後への「提案」や地域包括支援センターとしての「取組」に期待している。
- ・高齢者地域支援連絡会へ医療関係機関が出席できる取組や、クリニックにおけるサロン開催の働きかけ等、更なる地域とのネットワーク作り・医療関係機関との顔の見える関係作りについて、様々な場面を活用しながら、構想を実現できる取組に期待している。
- ・ケアマネサロンに一度も参加しない事業所の意図を確認し、参加へつながる働きかけを期待している。また、新しくできたマンションの自治会への働きかけは、難しいだろうが、地道に取組、協力体制を築くことを期待している。

## 地域包括支援センター安立園

### 1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区（町名）	晴見町・幸町・府中町・天神町・寿町		
人口	28,002人	高齢者人口	6,035人
自治会数	68団体	老人クラブ数	11団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	12	11	0	4	0	2	0	1	0	2	1	0	2	2

### 2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<p>晴見町： 高齢化率28.1%（H28年度27.7%）、自治会19、老人クラブ3。府中・国分寺間のバス路線が高齢者の足になっている。大規模UR賃貸住宅には高齢での転入世帯も多く地域とのつながりが希薄なため、自治会が会報や防災訓練、映画会、ジャズコンサート等により顔の見える関係構築に努めている。都営住宅には課題を抱える世帯が多く、孤独死を機に地域活動をより主体的に行っている。2・3丁目は戸建が多くケースを通して関わりを持っている。</p> <p>幸町： 高齢化率21.1%（同21.1%）、自治会17、老人クラブ1。大学や公園など緑豊かな地域で、戸建と都営や民間集合住宅が混在。少しずつできることから活動を充実させている自治会や、老人会・青年会も協力し多世代での地域づくりに意識の高い自治会もある。趣味を通じたサロンや認知症カフェから転化したサロンもある。</p> <p>府中町： 高齢化率16.0%（同15.8%）、自治会4、老人クラブ2。市中心部に近い便利な地区で、文化センターやルミエール府中を始め公的機関も多くあり住民以外の行き来もある。戸建には子世代との同居もあるが、アパート等での単身世帯も多く、見守りや支援が届き難い。</p> <p>天神町： 高齢化率20.7%（同20.3%）、自治会25、老人会2。東西を結ぶバスがなく安立園には来難い。ここ数年での新築大規模マンションに現役世代の転入があるも高齢化率は上昇、市中心部や安立園から離れている故に地域活動や民生委員の活動も活発であるが、相談件数が確実に増えてきている。</p> <p>寿町： 高齢化率21.7%（21.7%）、自治会3（1減）、老人クラブ3。会長が代替わりし、自治会館の機能強化や防災・子育てを通じた地域活動や介護予防の自主グループができた自治会や、青年会とタッグを組み安定的に活動をしている自治会もあるが、甲州街道沿いにはオートロックの高層マンションが多く管理組合の把握・連携は進んでいない。</p>
--

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦			① 0. 8			
資 格	社会福祉士	◎		◎	○	◎							
	保健師・看護師		◎							◎			
	主任介護支援専門員				◎					○			
	介護支援専門員	○		○	○	○	◎						
	介護福祉士	○		○		○	○	◎					
	歯科衛生士				○								

### 4 ヒアリング結果

#### ◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・スタッフ同士の顔が見えるような環境整備（誰が何をしているかが一目瞭然）に努め、スタッフ間のコミュニケーションをよくとるようにしている。記録もその都度入力し、動けるときは一人で動くようにし、情報共有を確実に行うことで、迅速かつ総合的な支援を行うことができている。
- ・介護予防を既存事業から地域住民の自主的な取り組むべく、芽のあるグループを見極め後方支援を行うこと、市イベントでのアンケートを生かしたアプローチの実施、老人会や自治会との良好な関係継続がなされている。
- ・在宅療養担当者連絡会でおこなった認知症疾患医療センターとの情報交換会に関して、昨年度の取組をふまえ、今年度は認知症初期集中支援チームに関し、各地域包括支援センターが情報共有できるよう、内容を再考し効果的な情報交換が行えた。
- ・介護支援専門員の実践力向上支援として、依頼したケースの状況把握とともに、支援方法の提案や同行訪問等を行い、ケアマネジメントの協働に努めている。また、ケアマネサロンにおいて、顔の見えにくい介護支援専門員の掘り起こしや参加意欲の向上に向けた働きかけに期待する。

#### ◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・権利擁護における各関係機関（権利擁護センター、各地域包括支援センター、市）との連携がスムーズにいくような工夫や提案を期待する。
- ・介護予防事業に関する各種新しい取組を工夫した際は、連絡会等での報告を行い他地域包括支援センターへの情報提供をお願いしたい。総合事業事業・介護予防ケアマネジメントに関する現状の基本ルールについて正確に理解いただいたうえで、実務上での疑問点等はこれまでのように問題提起いただきたい。
- ・地域包括支援センターとしても課題として感じている在宅療養に関する市民周知の点で、今後、家族介護者教室や地域支援連絡会など、身近な活動の中でも在宅療養周知のポイントを盛り込み企画をしていただけると、市民周知として有効であると思われる。
- ・家族介護者教室について、家族介護者ストレスのアンケート実施や自主的な家族介護者同士のつながりを目的に内容の工夫など家族介護者に寄り添った支援に期待するうえで、他地域包括支援センターとの情報交換なども効果的であると思われる。

地域包括支援センターしみずがおか

1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区（町名）	八幡町・押立町・清水が丘・白糸台（4～6丁目）		
人口	28,808人	高齢者人口	6,646人
自治会数	32団体	老人クラブ数	11団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	6	6	0	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

押立町： 市の東南、調布市との市境に位置し、市中心地から遠いために調布方面へ出て買い物や通院される方も多し。また9月末で商業施設が1店舗閉店してしまい、利便性が低下している。介護保険サービスも調布の事業所を利用される方も少なくない。

築30年以上の団地や戸建て住宅があり、高齢者世帯、単身者が増えているが、現住民の高齢化と合わせ、団地への高齢者の転入が多くなっていることも要因として挙げられる。団地やマンションの集会場を活用したサロン活動が行われており、高齢化について住民意識が高くなっている。押立体育館や押立文化センターなど、市の施設も活用されている。

清水が丘： 東西は東府中駅から多磨霊園駅まで、北は品川街道、南はしみず下通りまでの地域。1～3丁目まで、丁目ごとに自治会と老人会、公会堂がある。1丁目では地域住民主体のサロン活動と今年度新しく店舗を間借りする形での認知症のサロンが立ちあがった。2丁目では自宅を開放した認知症のサロン活動を行っている。

また、高齢の単身世帯、高齢者のみの世帯が多い。

白糸台（4～6丁目）

武蔵野台駅北側から調布市境までの地域。自治会の構成があさひ苑エリアとしみずがおかエリアにまたがるため、地域支援連絡会はあさひ苑と合同開催している。自治会同士のつながりが強く、自治会の活動が活発である。

八幡町： 府中駅から東府中駅の南側に位置し、競馬場が近いので開催日は来場者による交通渋滞がある。旧甲州街道沿いはオートロックマンションが多く、見守りが難しい地域である。利便性が高く、高齢の単身世帯が多い。日吉体育館、公会堂を利用した高齢者の活動が盛ん。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員						非 常 勤 職 員					
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	①	1.	0			
資 格	社会福祉士	○	◎									
	保健師・看護師			◎								
	主任介護支援専門員	◎										
	介護支援専門員	○		○	◎	◎	◎			◎		
	介護福祉士				○	○				○		
	栄養士						○					

### 4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・高齢者虐待については、市への速やかな報告及び対応の検討が行われている。また、成年後見制度の活用が必要だと判断した方については、権利擁護センターと連携して必要な書類の整備等を行い、必要に応じて市長申立ての相談等を市に対して行っている。

・他地域包括支援センター職員が参加できていない中で、介護予防コーディネーターは自治会の総会に参加するなど、地域での関係づくりが重視される役割を果たしている。また、昨年度の課題であった介護予防事業の新規参加者を獲得するため、電話等による勧誘を増やし対応している。

・多職種研修会の準備において、時間が限られている中で医療機関を訪問し、研修会の周知を行うことができた。また、多職種研修会においてエリアの医師と繋がったことで、実際の在宅療養の相談場面においても、医師との連携がスムーズに図れるようになった。

・家族介護者教室の対象者を介護者に絞りこむことで話しやすい空気を作っている。介護予防コーディネーター以外の職員も、まだ多くないが車返団地3街区、老人クラブなど、確実に地域と顔がつながり始めている。介護予防コーディネーターと一緒に、他の職員が積極的に地域に入っていく積極性がある。ケアマネジャーからプラン作成時に電話で相談をうけ、助言しているなど良好な関係である。

・業務は増加する一方で、タイムマネジメント研修を企画する等、業務の効率化を図るための工夫が感じられる。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・地域包括支援センター内での三職種の連携については、情報の共有は図れているとのことであったが、対応の検討等が十分になされるよう、機会の確保をお願いしたい。また、自治会等の地域との連携については、各職員が地域に繰り出し、より一層の連携を図れるよう体制の整備をお願いしたい。

・業務に若干の滞りが見られる部分があった。平成30年1月1日に組織機構の見直しも行われたことから、地域包括支援センター内での職員同士のサポートがより行われるものと期待しているが、業務執行が適切に行えるように勤務体制等を整えていただきたい。

・在宅療養相談窓口として、様々な場面を活用しながら、医療関係機関とのネットワークが

更に構築できるよう、取り組んで欲しい。

毎月の事例報告について、期限内の提出を心掛けて欲しい。また、対応に苦慮した事例だけでなく、好事例についての報告も期待している。

・ケアマネジャー支援も地域包括支援センターの業務であるので、個々のケアマネジャーとのつながりだけでなく、ケアマネジャー同士が横につながれるように取り組んで欲しい。

1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区(町名)	片町・宮西町・宮町・本町・矢崎町・日吉町		
人口	22,888人	高齢者人口	4,358人
自治会数	48団体	老人クラブ数	13団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	7	12	1	2	0	0	1	0	1	0	0	1	1	1

2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

<p>片町： 分倍河原駅周辺や旧甲州街道沿いの商業エリアとそれ以外の住宅地域からなり、戸建て住宅が比較的多い。交通の便が非常に良い。自治会は丁目ごとにまとまっており、祭り行事や防災訓練を合同で行うなど昔からの地縁は強いが、転入してきた住民は比較的地域との関わりが薄い。老人クラブの活動は活発である。片町文化センターがあり、周辺住民の地域交流の拠点となっている。</p> <p>宮西町： 市中心部に位置し、南部に一部戸建て住宅地域を残すが大部分が商業地域かマンションである。高齢化率は低い一方で、単身高齢者世帯は多い。新しくマンションができることが多く、特にオートロックのマンションなど高齢者の把握は進んでいない。戸建てを中心とした自治会においてマンション住民との繋がりを持てるよう働きかけているところもある。</p> <p>宮町： 府中駅の南、市中心部に位置し、生活利便性は高い。北部の1・2丁目は大型商業施設と大型マンションが立ち並び、南部の3丁目は戸建て住宅群で自治会を中心にまとまっている。高齢化率は低い一方、単身高齢者世帯は多い。総じて老人会の活動も活発であるが、後継者なく、解散したところもある。</p> <p>本町： 東西に長く、おおむね丁目ごとの自治会でまとまっているが、比較的新しい住宅群では、細かく区切られた数十世帯の自治会もあり、孤立しがちな高齢者が潜在的に含まれている。大きい自治会では住民相互の繋がりも強い。老人会は3・4丁目にはあるが、1・2丁目は解散し、存在しない。</p> <p>矢崎町： 市南部に位置し、サントリーの工場で南北に分断されている住宅地域。交通の便は良くなく、商業施設は少なく、医療機関はない。老人会も都営住宅に1つあるだけで、地域の高齢者が集まれるような機会が少ない。</p> <p>日吉町： 競馬場。人は住んでいない。</p>
---

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員									非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	職員⑧		① 1. 0				
資 格	社会福祉士	○	◎	◎			○	◎			○			
	保健師・看護師				◎									
	主任介護支援専門員	◎				◎								
	介護支援専門員	○		○		○	○	○						
	介護福祉士	○					○	○	○					
	その他	精									ヘル			

※ 精：精神保健福祉士、ヘル：ホームヘルパー

### 4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・虐待ケースや認知症のケースについて今年度より集計を始め、また、夏頃に戸別訪問を行い実態把握に努めている。相談対応については2人体制で行い情報共有をすることで、多角的な視点でケースを捉えた総合的な支援につながっている。また、担当職員不在時や土日祝日の対応もスムーズにできている。虐待の進捗状況について進行管理表で確認することで、対応の評価がその都度できている。

・介護予防講座や自主グループ支援に介護予防コーディネーター以外の職員が関わることで、地域包括支援センター職員と顔見知りになり地域包括支援センターを身近に感じてもらい、必要なときに相談しやすくなるように努めている。また、独立しがちな介護予防に関する業務を介護予防コーディネーター以外の職員が知る機会となり、業務負担の軽減にもつながっている。

・昨年度、医療機関や介護事業所等との連携の拡充が課題としてあげられていたが、今年度は、多職種研修会の周知のため、医科、歯科、薬局の全機関74か所を訪問し、研修会の案内とともに地域包括支援センターの周知も行い、ネットワークの構築に努めた。

・かたまち茶房にて障害の制度について学習会を開くなど、ケアマネジャーにとってアクセスしにくい情報をテーマとするなど、ケアマネジャーの課題をよく見分けられている。

また、家族介護者教室にささえ隊を活用するなど、認知症サポーター養成講座のステップアップ講座への案内をするなどささえ隊の活用にも努めている。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・総合相談に対応できる時間や職員をどのように確保していくかが課題である。また、成年後見制度を普及させるための取組としてパンフレットを活用しているが、まずは普及の評価をしていただき、その結果を受けて、更なる普及啓発に取り組んでいただきたい。

・総合事業では、従来のサービスのみならず多様な資源の活用が求められている。介護予防ケアマネジメントを実施するうえでは、いかにインフォーマルな資源を支援として活用していくかが重要となるため、地域に潜在する資源の把握に積極的に努めていただきたい。

・2025年に向け在宅医療が推進される上で、市民に在宅療養（訪問診療、緩和ケア、看



とりなど) に関して普及啓発していくことは、とても重要な事である。地域包括支援センター内でも、そうした視点で少しでも市民啓発に取り組んでいただきたい。

・今後も、介護支援専門員が相談しやすい関係づくりと、介護支援専門員が自身に何が必要か気づきを生むような支援をより一層お願いしたい。

## 地域包括支援センターしんまち

### 1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区(町名)	新町・栄町													
人口	14,764人				高齢者人口				4,195人					
自治会数	76団体				老人クラブ数				8団体					
介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与

### 2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

新町・栄町は、市内の北に位置し、小金井市・国分寺市と隣接している。東西に横長のエリアであり、公共交通機関は南北のバスはあるが、東西の移動には不便を感じる地域である。当地域包括支援センターは東に位置するため、栄町在住の方には不便さがある。また、地域には公共の施設が少なく、新町文化センターと栄町体育館の2施設以外は都営住宅の集会所等小規模な施設しかない。地域包括支援センターが催しを行う場合も、地域の方が自主的に集う場合も、適切な場所がなく大きな課題となっている。

新町・栄町は、市内でも高齢化率の高い地域であり、年々上がっている。(新町27.3% 栄町30.4% エリア28.4%) また、高齢者人口の27.8%が単身世帯となっている。古くからの都営住宅(新町5 栄町7)・市営住宅(新町2 栄町1)では高齢化がさらに進んでおり、住環境の問題や自治会としての活動が困難になるなど、様々な課題もある。また、戸建て住宅の自治会は10~30世帯で構成される小さな自治会が非常に多く、回覧板を回すだけの自治会が大多数を占める。高齢者の多い一部の自治会では、見守り体制をどのように築くかが課題となっている。

地域の老人クラブ・婦人会等の見守り活動のほか、自治会、自主グループのサロン活動が地域包括支援センターやわがまち支えあい協議会とのかかわりの中で広げられるよう模索している。

新町・栄町は以前から介護保険事業所が少ない。市内全域の事業所と協力関係を築くことが重要となっている。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員					
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦						
資 格	社会福祉士	◎	○		◎	○							
	保健師・看護師			◎									
	主任介護支援専門員		◎		○								
	介護支援専門員	○	○		○	◎							
	介護福祉士				○	○	○	○					
	歯科衛生士		○										

### 4 ヒアリング結果

#### ◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・介護予防事業をとおして地域の高齢者そしてそのご家族と相談しやすい関係が築けているため、高齢者の状況変化にもいち早く気づけ、関係機関への引き継ぎが円滑に行えている。

・エリア内に公共の施設が少なく、活動の場が文化センターか地域体育館、都営住宅集会所の数か所といった限られた中、商店会や保育園とつながりを持ち、高齢者が介護予防に自発的に取り組めるよう、多くの工夫がみられる。

・在宅療養の普及啓発について、各担当ごとに計画を立て実施していることから（地域支援ネットワーク担当は高齢者地域支援連絡会で住民向けに在宅医療についての講演会を、主任ケアマネジャーは勉強会で在宅療養に関する勉強会を連続で開催）、対象者に合わせた内容での開催が可能となっており、住民・支援者それぞれに必要な知識の伝達ができている。

・ケースワークの中から勉強会のテーマをあげており、ケアマネジャーにとって必要な情報が得られている。医療の視点を学ぶうえでもとても参考になるため、今後も継続して欲しい。

#### ◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・ケース対応の進行管理について、一覧を作成して行うという方法は講じられているが、実行が不十分なため十分に機能していない。不足なく行えるよう実行の徹底や、方法の再検討をしてほしい。

・ボランティア育成において、各教室等で呼びかけやひろめ隊の派遣を積極的に行うなどして、担い手確保につなげていただきたい。実際にボランティア活動をしている人を見ることで、講座等の参加者に良い刺激を与えられる可能性がある。

・総合相談・支援業務の設問のいくつかで「十分でない」「改善に取り組んでいない」などの回答があった。「どの職員も同じように対応できることが必要」とも回答いただいております、相談の中には在宅療養に関するものもあるので、すべての職員が研修や有効な指導が受けられるような体制作りと職員のモチベーションアップに取り組んでもらいたい。

・認知症サポーター養成講座について、様々な機関へ働きかけ、地域との独自のつながりを活かした商店への講座実施に向けた働きかけを期待する。地域の「こんなことしたい」と「こんなことして欲しい」を結び付け、生活支援コーディネーターへつないでおり、全地域へ波及できるような良い取組がなされていると思う。

地域包括支援センター緑苑

1 基礎情報 (平成29年10月1日現在)

担当地区 (町名)	緑町・浅間町・若松町 (2～5丁目)		
人口	24,075人	高齢者人口	4,328人
自治会数	30団体	老人クラブ数	4団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	0	2	1	1	1	3	1	1	1	0	1	1	0	0

2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

担当エリアには1か所の都営住宅と1か所の市営住宅、高齢者専用住宅やすらぎ2か所を抱えている。担当地区は、府中市内で最も高齢化率が低く、特に若松町については、40歳から64歳の人口が多い特徴が見られる。今後、これらの方々が高齢期を迎えて行くことになる。包括がそれぞれの地区に伺い予防事業や見守り事業の周知、実施を進めて行くのももちろんだが、地域住民同士が相互に助け合っている役割づくり、自発的に活動している環境づくり・場づくりを進めていきたい。

緑町： 八幡町から移り住んだ方や新しく住宅を購入した方が住んでいる。府中市の中心部に位置し、所得の高い方も多く居住している。主たる自治会は4自治会、老人会1団体、婦人会1団体である。高層マンションも増加し、人口が多くなる傾向にある。高齢者のみでなく、児童も増加傾向にあり、府中第2小学校は市内でも児童数が多く、浅間中学校では青少年対策委員会も活発に活動している。府中の森公園では自主的にシニア世代の方々が健康のため、個人・グループで様々な活動を行っている。

浅間町： 市内中心部から離れている事もあり、昔から自治会・老人会・婦人会が相互に連携し、協力体制の下で地域づくりに取り組んでいる。特に浅間山を抱える地域として山に関する事での人間関係が強く根付いている。また、各自治会が新しく建つ住宅に対しては自治会への勧誘を必ず行い、積極的に声を掛けて行く等、地域のまとまりを常に考えている地域である。浅間町の自治会を中心に防災組織も形成されている。一方で役員体制について高齢者中心の自治会と、若い現役世代中心の自治会があり、また、連番制で毎年役員が一新されるところが多く、年数をかけての継続した取組が引き継がれにくい課題が出てきている。商工会については地域の方々が参加できるハロウィン祭りをを行い、高齢者から子ども達まで幅広い世代を対象に活動を展開し、顔の見える関係づくりを進めている。

若松町 (2～5丁目)

介護老人保健施設や有料老人ホームがある。昔からの居住者、地主も多いが、反面、賃貸アパートで生活する新しい住民も多く、関わりが難しい部分もあると思われるが、自治会を中心に季節ごとのカレーパーティー・芋煮会等の行事で熱心に地域づくりを進めている。地域支援連絡会等での情報提供や協議により、昨年度より若松町3・4丁目自治会が見守り活動に向けた動きを取り始めており、具体的にご近所同士で互いに顔の見える関係性を作ろうと努力されている。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	① 0. 3	② 0. 6	③ 0. 5	④ 0. 4	⑤ 0. 3
資格												
社会福祉士	◎				◎					◎		
保健師・看護師			◎									
主任介護支援専門員				◎		○						
介護支援専門員	○	◎		○	○	○				◎		
介護福祉士	○	○		○	○	○	◎					
その他												

### 4 ヒアリング結果

#### ◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・毎日夕方の1時間のミーティングで課題の共有だけでなく、そこに至る相談プロセスを共有することで、観察力や情報収集能力のセンス等の質の向上を図っている。相談ケースにおいて現況の確認を適時行うことができおり、取りこぼしのないフォローにつながっている。

・圏域内の介護支援専門員からの相談に対し、地域包括支援センター職員の同行訪問やケアプランへの助言など適切に対応されている。様々なケースに今後も継続して関わることにより、地域包括支援センター職員のケアプラン作成の際に活用されることや、圏域全体の介護支援専門員の質の向上につながることを期待される。

・在宅療養の地域住民への普及啓発について、地域住民には「安心シニア塾」で在宅療養に関する講演を開催し、実際に必要になった人には窓口で選択肢のひとつとして提示するなど、地域住民への普及の大切さを理解し、実行している。特に、講演会では講師を市内事業所から選んでおり、住民が利用する際の垣根も下がると思うので、継続を期待する。

・365日相談を受ける体制を整えており、土日にしか会えない家族の方の相談や、見守り訪問対象者を決めて対応するなど、市民の目線に立った相談体制に取り組まれている。

・低額宿泊所や郵便局、新聞配達所等を対象に認知症サポーター養成講座を実施することで、見守りの通報にもつながり、見守りネットワークの網の目が着実に細かくなってきている。今までの地域に根差した地道な取組の結果、地域住民の地域包括支援センターの理解にもつながっており、今後も期待をしている。

#### ◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・成年後見制度についての学習は、ケースワークを通して行っている。外部研修への参加状況についてはあまり把握しておらず、研修資料の回覧も行っているが、それらの効果や習熟度については不明瞭となっている。まず実態把握をしていただきたく、その上で効果的な方策を考え、実践、市民への啓発活動につなげていっていただきたいと考える。

・地域特性から介護予防事業の参加者数を増やすことに苦慮している一方で、相談等の業務を通じて知り得た高齢者を介護予防事業につなげることに不十分さがあることから、介護予防推進事業担当者や介護予防コーディネーターを中心とした地域包括支援センター内の更な

る連携が必要と考える。

・ケースについて、関係機関と調整に齟齬が生じたときなど、ケースの振り返りをするなどで相互理解が深まるとともに、関係性を良好に保つことができると考える。他機関との連携は今後も重要となるので、何か起こったらそのままにせずには是正に向けた動きをしていただけると良いと思う。

・65歳の人で障害から介護に切り替わる方について課題と捉えていたため、センター内だけでなく地域のケアマネジャーも含めて深められる機会をつくって欲しい。

## 地域包括支援センターにしふ

### 1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区（町名）	西府町・本宿町・日新町		
人口	17,111人	高齢者人口	3,317人
自治会数	12団体	老人クラブ数	5団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	5	1	1	2	3	5	1	2	0	1	1	0	0	1

### 2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

担当エリアの高齢化率は19.3%（H29.4.1現在）である。西府町・本宿町地区は、南北に走る鎌倉街道と東西に走る甲州街道により、5地区・6地区に生活圏域が分かれる。西府町と日新町は、国立市との市境に面している。かつては農業を中心に営んでおり、田畑が多く存在していたが、近年は宅地や事業所用地の開発が進んでいる。日新町地区は、日本電気（NEC）の府中営業所があり、2万人規模の従業員が勤めている。本宿町北部には東芝事業所があり、本宿3・4丁目地区は東芝関係者が多く住んでいる。比較的元気で社交的な高齢者が多くいる一方、老人会や自治会とも疎遠な人がいる。また、マンションやアパート等の資産を持つ高齢者もいる反面、家賃の安い集合住宅に住む世帯もあり、所得格差の開きが大きい。くらやみ祭りや熊野神社の例大祭の氏子を軸とした地縁が深い。西府町・本宿町・日新町共に西府文化センター圏域のコミュニティ協議会に属しており、文化センター祭りや高齢者向けの輪投げ・ペタンク・グランドゴルフ等の競技会を主催している。

<交通や買い物、医療機関などの環境について>

西府町、本宿町は甲州街道・新鎌倉街道・南武線線路と、日新町はハケ（崖稜線）と中央高速道路の高架により生活区域が複数に分割されている。公共交通機関として市内を南西に横切るJR南武線「西府駅」がある。バスは甲州街道を通るバスは一時間に1本、駅ロータリーを経由する公共バスの乗り入れが少ない。ちゅうバスは本宿町の北側に一部通るだけで不便さを聞くことが多い。日新町地区からは、府中市内へのバス便は通っていない地区があり、バス便のある多摩市の聖蹟桜ヶ丘に出る人が多い。移動用にマイカーを所有している世帯が多く、80歳を超える高齢ドライバーも多い。平成28年2月に西府駅前にスーパーマーケットが開店し、食品・日用品の購入先としてハケから上地区の買い物環境は改善された。飲食店が少なく、ドラッグストア・ホームセンター・衣料品店・靴屋等がなく、不便な面は残る。医療機関は、地区内に内科2医院・整形1医院であったが平成29年秋に眼科開業、30年春には内科が新規開業予定。しかしながら依然として医療機関が少なく、また医院の場所が偏在しており受診しにくい様子が想定される。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員						非 常 勤 職 員						
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	① 0. 8	② 0. 8	③ 0. 3	④ 0. 3			
資 格	社会福祉士	○	◎	○		○				○			
	保健師・看護師				◎								
	主任介護支援専門員	○		◎									
	介護支援専門員	○	○	○	○					◎			
	介護福祉士	○		○			○				◎		
	その他		精			ヘル						ヘル	

※ 精：精神保健福祉士、ヘル：ホームヘルパー

### 4 ヒアリング結果

#### ◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・経験豊富な相談員が地域に溶け込み、高齢者のみでなく、多くの人に地域包括支援センターの知名度を上げる努力と、年齢に関わらずに地域包括支援センターに連絡があった場合の対応も迅速に行われている。
- ・新規利用者の獲得に向け、介護予防把握事業の返信者データやイベントアンケートの情報を基に、DMや電話で個別アプローチを図っている。
- ・医療・介護連携において、市で開催する多職種研修会の他、NPO主催のイベント等に積極的に参加し、医療関係者や介護事業所等との連携強化に取り組んでいる。
- ・多職種研修会周知のため担当地区内の医療機関26件へ訪問した。
- ・地域（小中学校への認知症サポーター養成講座、福祉体験、サロン活動等）活動や、「にしふ新聞」を活用した広報周知を継続的に実施し、地域包括支援センターの普及啓発並びにネットワークの構築・強化に取り組んでいる。

#### ◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・事務所内のレイアウト考えた結果であるようだが、個人情報・セキュリティ管理において相談窓口テーブルに支援センターシステムが置かれている状況を解消してほしい。
- ・介護予防普及啓発活動等の担い手づくりにおいて、十分なボランティア数の確保にはつながっていないため、今後とも各教室等で呼びかけを積極的に行っていただきたい。
- ・医療機関との連携に関し、市・地域包括支援センターそれぞれがつながっていくことが必要であるため、今後も、医師会をはじめとして、更に太いパイプとなるよう取り組んでほしい。
- ・地域の介護支援専門員と合同でケアマネカフェの開催や地域支援連絡会への参加を呼びかける等、介護支援専門員と地域とのネットワークづくりができています。今後は、継続的な関わりの中からより良い個別支援へつながる取組を期待する。



1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区（町名）	是政・小柳町		
人口	22,159人	高齢者人口	4,823人
自治会数	15団体	老人クラブ数	9団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	3	2	0	3	0	6	0	0	0	1	0	0	0	0

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

是政、小柳町は東西が多摩川に沿い、南側は中央高速をまたぎ崖線したまでと府中市内では低地に属する地域が担当エリアである。居宅支援をはじめ介護保険事業所は少ない。医療面では入院可能な病院は1か所、医院は8か所。生活資源では商店街はまばらでスーパーは1軒、コンビニは8軒、コンビニを身近な店舗として利用する高齢者も多く認知症高齢者の見守りや情報提供では連携が必要となっている。交通機関はちゅうバスの2系統と西武多摩川線がJRに繋がり沿線の病院や買物に鉄道を利用する人も多い。また、多摩川が近いため水害の恐れがあり防災意識は高い。安全で安心して住み続けることができる地域をめざし、住民とともに地域活動の輪を広げてきた。お互い、顔の見える関係からワンストップの相談体制を軸に介護予防を含めた支援体制を展開していきたい。

是 政： 古くから洪水により、村全体が移住した歴史があったと古老から聞くが、そうした苦難の時代でも村民が結束し、多摩川が落ち着くと皆、村に戻ってきた。よくも悪くも村意識が残っているため、新住民に対しては排他的な面を感じる風土である。しかし、広い田畑の維持は難しく、昨今は大型マンションやアパートが目立つようになった。古くからの住民とマンション住民の間には交流は少なく、閉鎖的な旧住民に対する包括の介入も依然として難しい。高齢化率は若年層の流入により約20%で推移している。

小柳町： 水田の後を50年前に住宅地として開発し住み始めた人達を中心である。当時、3、40代だった住民の多くが一斉に高齢化しているため高齢化率も24%と是政に比べ高い。住民意識も強く、団結力もある。自治会活動も比較的盛んで特に、小柳町の連合組織として小柳五町会を設け、毎年、主催を当番による防災、防犯、交通等の啓発活動を行っている。地域包括支援センターこれまさも毎年、こうした事業に参加、住民組織との連携や包括支援センターの周知啓発活動に行っている。徐々に活動の成果は実を結び、介護予防事業や自主グループの活動も活発である。自治会や老人会、民生委員が住民と

包括支援センターとのパイプ役になり相談支援に繋がるケースも多い。住民主体の交流サロン、「コミュニティカフェこれまさ」「こやなぎサロン」「ポピーの会」の活動も6年目に入る今も続いている。エリア内の小中学校では認知症サポーター養成講座を定期開催、講座をきっかけに青少年対策委員会と交流が生まれ、地域活動の一環として中学生の地域清掃には毎年、参加している。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員									非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	職員⑧		① 0. 2	② 0. 2	③	④	⑤
資 格	社会福祉士	◎												
	保健師・看護師			◎										
	主任介護支援専門員				◎									
	介護支援専門員	◎	○		○	◎	◎	◎		◎	◎			
	介護福祉士	○				○	○	○	○		○			
	栄養士									○				

### 4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・ケースミーティングを定期的に行い、職員間でケース情報の共有が図られていると共に、困難ケースや虐待の市への報告も速やかに行われている。また、地域ごとの詳細な特性を捉えており、地域包括支援センターの知名度向上のための取組や消費者被害防止のための注意喚起等を積極的に地域に出向いて行っている。
- ・自治会や民生委員など、地域との関係性の構築に長年注力し、地域包括支援センターに対する理解が広がったことで、介護予防事業の会場を確保できていることに加え、これまで交流のなかった地域において老人会が解散してしまったことを契機に講座を開催するなど、積極的な姿勢が地域との良好な関係性に寄与していると考えられる。
- ・在宅療養の周知を積極的に行っている。特に、地域の資源を使つての啓発は、地域住民が在宅療養が必要になったときに身近な資源を利用しやすくなる、地域包括支援センターと地域資源がより強固に繋がるきっかけになるなど効果が高い。継続を期待する。
- ・ケアマネジャーからケアプラン等の相談も多く同行訪問するなど協力体制が完成している。また、他地域包括支援センターの事例検討会にも積極的に参加し、センター内で情報共有している。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・大規模な集合住宅や閉鎖的な地域が存在することから、詳細なニーズの把握や地域との関係作りに苦慮している面がうかがえる。民生委員等も巻き込んだこれまでの取組により、少しずつ関係性が構築されてきているとのことであるが、地域課題を抽出していくためにも、今後より一層の働きかけをお願いしたい。

・施設併設ではないことからボランティアの確保に苦慮され、また、ボランティアの方の高齢化から若い方の確保も行っていく必要があると考えられることから、市がどのような支援をすることができるか検討するためにも、市との役割分担を含めて、ボランティアの新たな確保に向けてともに検討いただきたい。

・「全職員に在宅療養の意義を浸透させ、誰が相談を受けても、自分らしく生活することを支援できるようにする」と述べていただいたが、重要なことと思う。医療との連携事例のうちの事例を報告するかを職員全員で共有のうえ選定する、ケア会議も様々な職員が出席するなど、様々なツールを使って是非、進めていっていただきたい。

・介護者教室に「介護している訳じゃなく、自分のために来ている」人がいるとのこと。想定外の方が参加しているのかなと感じた。

1 基礎情報

(平成29年10月1日現在)

担当地区(町名)	南町														
人口	9,244人							高齢者人口	2,521人						
自治会数	9団体							老人クラブ数	4団体						
介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与	
延べ件数	3	3	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1	1	

2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

市の南側に位置している。高齢化率は27.3%。多摩川の直ぐ近くにあり、公営公園も近くにある。古くから田畑の多い地区でもあり、農家を営む方も多くいる。水路や井戸等も多く、道路側溝がある場所が多い。町を囲むようにバスは走っているが、中心部は道幅狭く交通機関がない。その為、住民の多くは、徒歩や自転車等で近隣商店に買い物等に出る。町内には個人商店やコンビニエンスストアはあるが、量販店がない為、中河原や聖蹟桜ヶ丘、分倍河原や府中駅まで買い物に行っている。町の南側には高層公営住宅があり、高齢者が多い。また、築年数の古い住宅も町の南側に多く、土間があり、あがり框も高いような住宅も点在している。町内の自治会は9団体、100世帯程度の小さな自治会から、1000世帯を超えるような大所帯の自治会まであり方は様々。公会堂が2か所、集会場が5か所程あり、青年会や自治会の集まり、祭りや行事等で使用されている。しかし、公会堂を持たない自治会もあり、高齢者が集まる場所は少ない。

### 3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成29年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員					
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦			① 0. 8			
資 格	社会福祉士	◎		○	◎	○							
	保健師・看護師		◎										
	主任介護支援専門員			◎									
	介護支援専門員	○		○	○		◎						
	介護福祉士	○					○	◎					
	その他												

### 4 ヒアリング結果

#### ◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・ケースの進捗管理について、毎月のセンター内ミーティングで状況を確認し、段階的な優先度をつけて管理している。

・「井戸端サロン」への参加など、地域の資源開発に取り組んでいる。また、ケアプランの作成に当たり、介護保険のフォーマルなサービスだけでなく、利用者のニーズに応じて介護予防の教室や講座、地域で自主的に開催されているサロン等の資源に関する情報提供を行っており、地域の多様な資源の活用に積極的に努めている。

・地域包括支援センター独自の多職種研修会を、医療・介護関係者に留まることなく、幅広い分野の方々を対象として企画・開催し、多職種のネットワーク作りに取り組むことができた。また、在宅療養相談窓口として、地域の医療・介護資源を把握しており、どの医療機関に対しても壁を感じることなく連絡・連携することができている。

・ケアマネサロン・家族介護者教室等、各種専門職に講座をしてもらうなどのテーマの工夫や、開催日時を見直しより多くの方が参加しやすくし、ネットワークの構築に努めている。

#### ◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・市の課題として、総合事業に関して事業所の理解が不十分なことがある。市が中心となって理解の促進に取り組むが、地域包括支援センターに問合せがあった際には説明を行うなど、機会があれば情報共有等を積極的に行い、事業所の理解促進に協力いただきたい。

・個々が把握した医療機関や介護事業所、インフォーマルサービス等の地域内外の資源情報について、口頭での共有だけではなく、見える化していけるような取組を期待している。

・住民や関係機関との関係性の構築に限らず、自治会や民生委員とのネットワークを強化し、課題をみんな（地域住民・関係機関）で共有し、方向性を見ながら実施することにより更なる効果を期待する。